

科学コミュニケーター体験講座

7月23日（水）、東京都お台場にある日本科学未来館にて「科学コミュニケーター体験講座」の第1回目が開催されました。この講座は、2日完結型で、科学を伝え、ともに考えるという“科学コミュニケーション”の役割や重要性を学習することが目的となっています。講座2日目には、限られた時間の中で、他生徒に対して未来館にある展示物を、いかにわかりやすく、楽しく解説できるかに挑戦します。

講座1日目では、館内を自由に見学し、担当する展示物の情報収集を行いました。生徒自らが積極的に、科学コミュニケーターやボランティアの方々にインタビューするようすも見られ、第2回目の展示解説が非常に楽しみです。

またその他に、30min.サイエンスというプログラムに参加し、「iPS細胞がもたらすこれからの再生医療」というテーマで、科学コミュニケーターさんや生徒同士で簡単な意見の交換を行いました。さらに、「わたしが暮らす未来」というテーマの別のプログラムにも参加しました。これは、未来館のワークシートに従いながら、2030年に様々な職業についたつもりで、展示物を用いながら科学技術のメリット・デメリットを班毎に議論するものです。最後には、2030年における3Dプリンターのメリット・デメリットについて全体でディスカッションを行いました。自分の意見を科学的に伝えたり、人の意見に対して異議申し立てを行ったり等、白熱したディスカッションとなりました。なかでも、3Dプリンターのデメリットが多く出る中、警察官の立場で考えられるメリットについて、「指名手配犯の顔を3Dで作り、様々な箇所に設置できる」という意見が出た際には、拍手がおこりました。様々な立場に立つことで、今まで考えもしなかったことが思いついたり、他人の意見をきくことで視野が広がる等、科学コミュニケーションの重要性についてしっかりと理解できたように思います。なにより、生徒自身が非常に楽しそうで、生き生きと積極的に参加していたようすが非常に良かったです。



未来館で記念写真



展示物見学



機械を用いた手術体験



解説する展示物の情報収集



科学コミュニケーターにインタビュー



iPS 細胞について討論



色んな職種の立場から科学技術を考える



科学技術のメリット・デメリット



班毎でのディスカッション全体で



3D プリンターについて議論